

生徒課

生徒課がなすべき役割

生徒指導主事 小野 公義

本校に赴任して生徒課の仕事をするようになって2年が経過しました。この2年間の中で時代に合わないようなルールの見直しを進めてきました。特に、昨年度は「校則検討委員会」を発足し、生徒と共に校則のあり方を見直してきました。生徒たちから意見を聞き、時代や現代の生活様式に合うようなもの取捨選択し、ひとつの形となったものが「生徒心得」です。言わば、これが本校のルールブックとなるわけです。我々職員はこのルールブックに合わせて生徒を指導しています。

さて、今回の輝潮祭では、生徒会長・生徒会から輝潮祭の2日間、上記のルールを緩和したいという提案がありました。生徒会長は「断固たる決意」を持ってこのことを提案したと考え、我々職員もルールの緩和について真剣に協議し、結果として生徒会長の案に寄り添うような形でルールを緩和しました。このことは一つのテーマについて生徒、職員が議論を重ね、それを実行することができたという点で非常に良かったと感じます。

我々生徒課は、「生徒心得」に基づき生徒を指導することをメインとした分掌であるため、ともすると生徒と対峙する業務であると考えられがちです。もちろんそういう一面もありますが、これからの生徒指導とは、生徒の自己指導力を育み、生徒と共に考えて、新たなものを作り上げ、より生活しやすい安心・安全な江之島高校をつくりあげていくことであるとも考えます。生徒課はこれからも生徒たちの叱咤激励者であり、伴走者であることを意識して教育活動をしていきますので、保護者の皆様にもご理解とご協力をお願いできれば幸いです。

進路課

進路実現にむけての 本校の取り組み

進路指導主事 近藤 菜里

「試験に向けて先生と一緒に取り組んできたことを自信に変えて、受験をしたので悔いはない」この言葉は、昨年度の受験報告書に書かれていた言葉です。進路実現に向けて、充実した高校3年間で過ごしてくれることを願っています。

本校では、朝学習の時間に動画視聴・テストの実施ができる到達度テスト連動配信課題などに取り組むことで苦手分野を減らせるよう学習をしています。朝の一定の時間にタブレットを使用した学習を継続しています。

昨年度の就職において、指定校求人数は208でした。就職希望者にとって一人約4社選べる状況でした。進学では指定校推薦の依頼は、大学136校、短大42校、専門学校152校でした。高校生活で力を入れて取り組んだ学習や部活動などの成果をいかして、様々な選択肢の中から生徒が進路を選択することができました。以上のような本校卒業生の状況を理解して、将来の夢の実現に繋げてほしいと考えています。

本校の進路学習では、1年生は進路の可能性を広げ、2年生は進路希望を決定し、3年生は進路実現するように指導しています。保護者の皆様は、常に将来を考える相談役になっていただいていると思います。御家庭では経済的な面も含めて、進路についてお話していただきたいと思います。また、学校等で実施される進路ガイダンスは保護者の皆様の参加も可能ですのでご活用ください。進路指導スケジュールの詳細は、お子様がお持ちの進路の手引きに記載していますのでぜひ御覧下さい。

教務課

「私とAIと責任と」

教務主任 中村 剛久

こういうことがありました。
音楽の授業のたえ話のため、「常用漢字（小学校や中学校で学ぶ漢字）で、読み方が難しく、大学入試でも問われる漢字クイズを作りたい」と、A Iに質問をしてみました。私のイメージは「予め（あらかじめ）」のような問題を期待していました。

ほんの数秒で、かしこいA Iは私に「私（ひそ）かに」「聊（いささ）か」がいいでしょう！これは生徒も驚きますよ！と、自信たっぷりに、返答をしてくれました。私もそれをメモして、さて授業に行こうと思った瞬間、なぜか、いやな予感がしたのです。そして、常用漢字表を検索して「私」という漢字がもつ読みを確認しました。

「ひそか」は、常用漢字の読み方にはありませんでした。

私は何を言いたいのか。つまり、A Iは平気です。そをつくということです。もし、私がそのそを見破れず、得意顔に、皆さんにこの漢字クイズをしていたら、皆さんも私に騙される。ではその責任はだれにある？A I？…違いますよね。A Iが言った間違いを見破れず、平気で信じて、それを情報として垂れ流した、私に責任があることになります。

A Iを使いこなす能力やスキルがなければ、これからの社会はやっていけません。それは間違いのない事実です。ですが、はっきり言います。A Iが出してくれる情報は「あなた以下」です。あなたがその間違いに気が付けないのであれば、それは世に出せない、間違いだらけのどうしようもない文章です。あなたが知っているレベルでしかA Iは創造などできないのです。

もし、私のこの話を嘘だと思うのなら、あなたの得意分野で、A Iに何か聞いてみてください。その中にあるたくさんの嘘にきづけますから。



生徒の活躍

吹奏楽部

第27回中部日本個人・重奏コンテスト静岡県大会 令和8年2月22日（日）
高等学校個人部門 アルトサクソフォン独奏 **金賞 本目 拓**

第38回中部日本個人・重奏コンテスト本大会 令和8年3月29日（日）
高等学校個人部門 アルトサクソフォン独奏 **金賞 本目 拓**

美術部

第73回NHK杯全国高校放送コンテスト静岡県大会 令和8年6月14日（日）
創作テレビドラマ部門 **第3位**

第50回全国高等学校総合文化祭 令和8年7月
あきた総文2026 **出場**

陸上競技部

第62静岡県西部陸上競技選手権大会
令和8年4月11日（土）-12日（日）

第81回静岡県陸上競技選手権大会
会場：静岡草薙総合運動場陸上競技場 令和8年7月11日（土）-12日（日）
3227 **増田 凌久** 400mハードル **出場**

ダンス部



マイナビ HIGH SCHOOL DANCE COMPETITION
2026 SKYSTAG
4月18日（土） @両国国技館

静岡県立浜松江之島高等学校

〒430-0844 浜松市中央区江之島町630番地の1
電話 (053) 425-6020
FAX (053) 425-6026

URL <https://www.edu.pref.shizuoka.jp/hamamatsuenoshima-h/>



学校Instagram 男子バスケット部



生徒会



野球部



飛翔

Hamamatsu
Enoshima
High school

Vol.93

The month of issue 2026.7

News

御挨拶

今の経験が、未来の基盤になる

PTA会長 戸塚 由季子

令和8年度PTA会長を務めさせていただきます、戸塚由季子と申します。卒業生であり保護者でもある私にとって、母校の活動に携われることを大変光栄に思います。

校舎に立つと、当時の景色が蘇ります。高校時代、悩むこともありました。部活動で積み上げた経験は今の自分を支える礎となりました。在校生の皆さん、勉強や行事など何事にも全力で取り組んでください。今はその意味が分からなくても、振り返った時に「あの時頑張ってたよ」を感じる日が必ず来ます。

また、本校にはこの春、同じ敷地内に静岡県立浜松特別支援学校江之島分校が開校しました。「多様性」という言葉を耳にする機会が増

えています。私は、相手を「理解してあげよう」と力むのではなく、お互いの個性を日常の風景として自然に知っていくことが大切だと考えています。

文化祭で見られた交流の姿も、とても素敵でした。日々の学校生活の中で顔を合わせ、言葉を交わす。そんな当たり前の積み重ねが、誰もが自分らしく過ごせる学校につながっていくと信じています。SNSで世界と繋がる時代ですが、まずは隣にいる仲間との温かさを大切に。保護者の皆様と共に、子供たちを温かく見守っていきたくて思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

御挨拶

選ぶための学び

校長 鈴木 雅道

新学期の始まりに際し、浜松特別支援学校江之島分校の開校式が行われました。式典では生徒の皆さんが、準備から挨拶、受付や誘導に至るまでテキパキとこなし、「共生・共育」を目指す本校の生徒として素晴らしい輝きを放ってくれました。マニュアル通りにいかない場面でも、自ら言葉や最善の対応を【選び】協力し合う姿に、生徒の皆さんの逞しい成長を感じ、深く感動いたしました。

さて、絵画の巨匠アングルは、後に印象派の代表となるドガに「線を引きなさい」と教えました。これは単なる作業の指示ではなく、「目的を持ってよく観察し、試して、自分で納得のいく線を【選び】なさい」という意味だったと私は捉えています。

私たちは日々、大小様々な【選択】をして生きています。生きる力は選択までの道のりと選択肢の多さ、といっても過言ではありません。

令和8年度 飛翔タイム

